

# 自転車利用実態定点調査報告

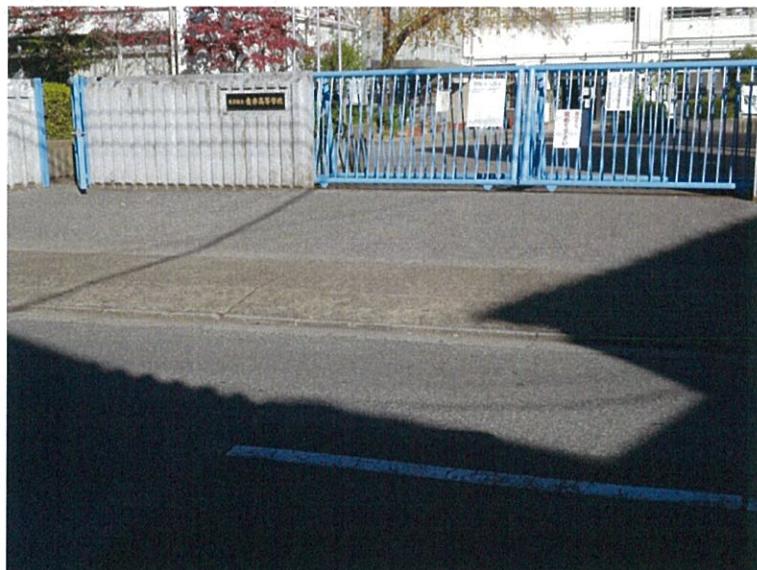
平成26年12月

(一財)日本自転車普及協会

**調査目的**    自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の参考資料としていただくことを目的に行う。

**調査日時**    平成26年11月18日  
[午前]8:00～8:50

**調査場所**    · 東京都立青井高校(共学・足立区)  
**概 要**    · 調査対象(高校生の自転車通学実態)



**調査事項**    走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票							
	走行空間		車種	雨天	危険運転行為		
	左側車道	右側車道			中央車道	片手運転	並列
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
	調査日時 :	年	月	日 ( )			
	天気 :				晴		
	調査時間 :	～	～				

### <調査票>

#### [コメント]

◎走行空間においては、左側車道走行率は、42%と4割強の結果であった。  
なお、右側車道走行率は、25%・中央車道走行率は、30%であった。

◎危険運転行為は、片手運転(40件)・並列(23件)・ハンドルに荷物(12件)・肩に荷物(11件)・携帯使用(3件)・過重積載、二人乗り(各1件)の順となっている。

#### 【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、かなり左側通行者(全体の4割)が多く、次いで中央通行者・右側通行者と続いていた。

歩道を通行する生徒は、ごく一部であった。

校門前に緩やかな勾配があるため直前の立ち漕ぎが多くかった。

(基本的に立ち漕ぎは、危険運転行為に該当するが、現況から止む無しと判断して、今回は、除外する)

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数660人)の8割強である。

そのため、校内には、学年毎に区分けされた駐輪場が数ヶ所に於いて整備(総収容台数400台)されているが、収容不可能な自転車が反対側の校舎の周囲に駐輪されていた。

なお、校門直前での左右や後方確認をしている生徒は、皆無であった。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前後には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

なお、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

校門の門扉は、8時45分に閉じられたが、同時刻以降で通学してくる生徒は、校門脇の通用門より入校していた。

さらに、同校前の道路は、日光街道の抜け道となっているため、大型車や送迎バス等の往来もあり、事故防止等の観点から時間に余裕を持っての通行が望ましい。

今回、同校には、自転車通学用の校門は、1箇所だけ存在していた。

そのため、多数の生徒が、左右方向から校門を目指す状況だが、圧倒的に左側からの生徒が多い。

理由として、校門を中心に左側は、直線道路なのに対し、右側は、緩やかなカーブがあるためと同校の説明があった。

因みに、自転車通学の条件は、特になく、また、車種制限も行われていない。

そのため、スポーツ車やマウンテンバイクで通学している生徒もいた。

なお、同校では、教諭による自転車通学の指導は、特に行われていなかった。

また、同校では、交通安全啓発の一環として、綾瀬警察署による自転車交通安全教室(年3回)が実施されている。



自転車駐輪場(広域)



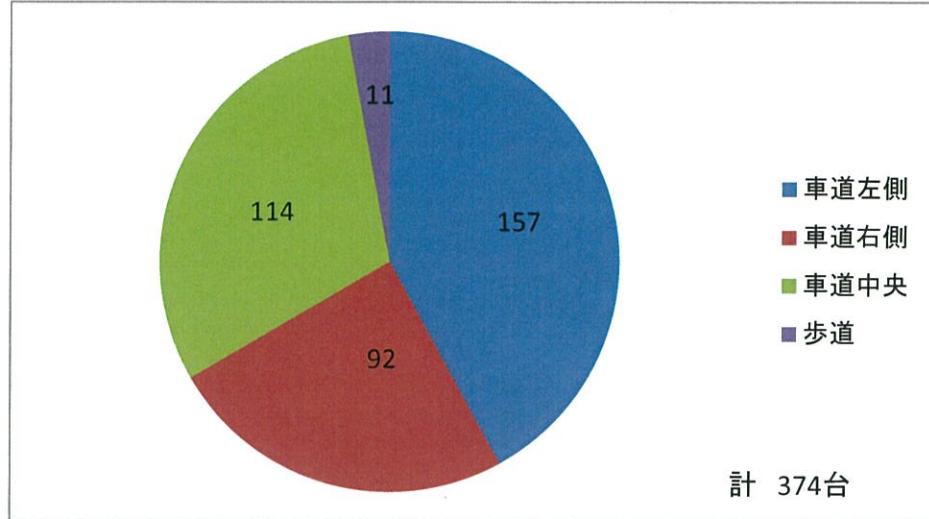
自転車駐輪場(内部)



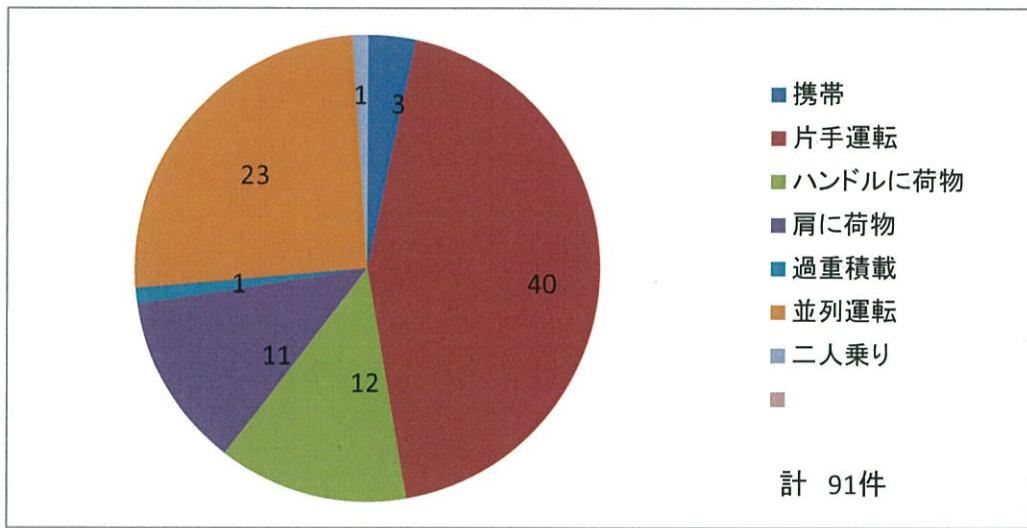
自転車駐輪場



校舎周辺の駐輪



走行空間



危険運転行為 (違反運転行為を含む)